

福岡高校卒業生の皆様へのお願い

大隅 良典

ノーベル賞受賞以来、早いもので3年余りが経ちました。この間私自身の生活は大変忙しいものになりましたが、受賞がなければ決してなかつたに違いない沢山の出会いと経験をすることとなりました。

世界的にも人類は解決することが求められている未経験の課題を抱えています。とりわけ予期もしなかったコロナウィルスの広がりは、地球規模で我々に生活基盤を考え直す必要性を突きつけています。いずれにしても正確な科学的知識が求められ、そのための基礎科学の健全な発展がますます重要になって来ています。その中にあって私の後にも日本人のノーベル賞の受賞が続いています。しかし、浮かれてばかりはいられない状況が今の日本にはあります。端的に言えば今後10年、20年後も受賞がこのまま続くかというと、はなはだ心許ない状況にあります。最近このままでは急速に日本の研究力が低下していくことが客観的にも明らかになってきています。

日本の科学の空洞化を打破し、より良い発展を目指して、2017年8月に「大隅基礎科学創成財団」を創設しました。一般財団法人として立ち上げましたが、1年の活動のうちに異例の早さで公益認定を受けて税制上の優遇措置が受けられる公益財団法人となることができました。

本財団は従来の財団とは異なる活動を通じて、新しい変革の息吹を吹き込みたいと考えています。すぐ役に立つ研究に資金が集中し研究者の純粋な知的探求心や自由な発想が危機に瀕している中、研究費など厳しい環境にある大学の基礎科学研究者支援を進め、研究者がもっと自由に発想し、オリジナリティを發揮できる社会を目指しています。膨大な研究費ではなくとも、多くの大学などの研究が生き生きと進められることなしには、次世代を担う意欲的な若者が育つことは期待できません。本財団の果たすべき役割と緊急性はますます大きくなっていると思っています。これまで27件、総額1億3690万円の研究助成を行ってきました。

第二に基礎研究者と社会、企業との新しい連携のシステムを作るための活動を進めています。その中心として、新しい試みである創発セミナーを開催しています。当セミナーは日本を代表する基礎生物学研究者の講演と企業の方々との交流の機会として、大変好評を頂き、すでに17回を数えています。科学を沢山の人が身近に感じて貰うことなしに人類の未来はないと私は思っています。そのため、未来を担う小中高生との集いや市民講座も企画し、企業の協力も得て魅力ある取り組みが始まっています。

一方、財団の活動を支える資産に関しては、既存の財団が企業設立者の個人の多額の寄付、株券などの資産によって立ち上げられているのに対し、本財団は私の拠出金のみを原資として開始しました。したがって幅広い活動を通じて、寄付や会費などの支援により財団自身も成長を続けることを目指しています。